

令和7年度(第1回) 身近な教育委員会 実施報告

区民が身近に感じる教育委員会の実現に向けて、「身近な教育委員会」を下記のとおり実施しました。

記

・日時 令和7年5月26日(月) 18時30分～20時15分

・場所 教育支援センター研修室(本庁舎南館6階)

・概要

第一部 第11回教育委員会

報告事項「不読率の改善～心を育む読書の大切さ～」

①心を育む読書の大切さ

②読書率向上の坂を上る

第二部 参加者懇談会

○グループディスカッション・発表

内容要旨は次ページ以降のとおりです。

・参加者 38名

内訳 保護者等 21名

教育長・教育委員 5名

教育委員会事務局関係者 12名



身近な教育委員会の様子

・参加者懇談会＜グループディスカッション＞

テーマ：読書を習慣づけるために家庭・学校・地域でできること

・各班からでた意見や考え

☆学校でできること

- ・朝読書を行う。朝に限らず読書時間をつくる。
- ・教室内にいつでも本を手にとれる環境をつくる。
- ・絵本に登場する料理を実際に給食で出して、興味を持ってもらう。
- ・好きな本を書写したり書いてみたりする。
- ・本の紹介をするとビブリオバトルを通じて、面白く本を紹介することで、本を読みたくなるようなきっかけをつくる。
- ・子どもたちの興味・関心のある本をできるだけ選んで用意をしておくといいのではないかな。

☆家庭でできること

- ・親も子どもと一緒に本読み、一緒に感想を言い合うことで、共感力を高めたり、親睦を深めていく。家族の楽しいイベントとして企画する。
- ・図書館や本屋さんに一緒に行って、習慣をつける
- ・家庭の中で身近な場所に絵本・書籍・新聞などを置く。
- ・本をプレゼントすることで、手にとってもらう機会を増やしていく。
- ・子どもの前でうちの人が忙しいだろうけれども、読書をする姿を見せるとか、就寝前の読み聞かせをする。
- ・親子で音読する。

☆地域でできること

移動図書館やマルシェなどを図書館や公園や集会所などで行う。

- ・絵本のフリーマーケットをやる。
- ・定期的に読書のメリットを紹介する。
- ・定期的にリサイクルイベントを企画し、服や絵本をリサイクルで出す機会を作る。
- ・小学校図書室のボランティアで、子どもたちも巻き込んだ図書室の装飾活動をしており、そこでは本を読みに来るだけでなく、何となく居心地がいい場所、何となく行きたくなる場所という居場所づくりをし、徐々に本にも興味を持ってもらえたらという取組をしている。
- ・図書館司書がいない時間にも保護者が来て図書館の鍵をあけておくことで、本を借りに来る時間を増やす。
- ・町の中にも出張図書館のような形で身近な場所に本を置く。

その他

- ・家庭・学校・地域のできることはそれぞれ重なる部分もあると思う。重なる部分も含めながら、それぞれの役割を果たしていくことがたいせつなのではないかな。

教育長所感

皆さんどうもお疲れ様でした。

いい発表でしたね。本当は全部の班から発表していただきたいところですが、お時間が近づいているということなので、最後の所感を私のほうから述べさせていただきます。

まず山口委員のお話、そして中央図書館長のお話でしたが、山口委員からは共感力が読書の中で身につくということで、なるほどなあと思いました。

確かにそうですね。想像するといいますか。そして人の気持ちになるということ、これが共感を生むわけですが、本を読むということはその本を書いた方との対話ですね。まさにそのことが共感を生むことになるし、読んだ人がまた話をするので、今の発表にもありましたが、そこでまた共感する、あるいは同じ本を読んでも違うことを感じて、そういう見方があるんだね、すてきだねって共感するとか。様々な形で、今失われつつある共感ということがしっかりできるのが読書活動なんだということを改めて感じました。ありがとうございました。

図書館長からはいかに今図書館がいろいろな仕掛けをしているかということ。絵本のまち板橋をうたっていますので、様々な形で中央図書館だけではなくて地域図書館もですが、これからもさらにいろいろな取組を仕掛けていきます。

その中で、やはり地域の拠点としての図書館ということで環境整備しまして身近なところに本がある。図書館にふらっと立ち寄っていただいて、本に親しんでいただく、やはり何でも楽しくないと、読書だけでなく、スポーツだってそうです。楽しくないとなかなか人間って、取り組みませんので、そういう仕掛けを用意していきたいと思います。

家庭も学校も同じだと思います。先生がいかに工夫をして、楽しみながら読書ができるっていう環境を整えるか、ご家庭もそうですね、たのしみながら、親子で会話をしながら、一緒に読んで感想を話し合ってもいいし、そんな形でできるといいなっていうのが皆さんの模造紙の発表の中にもありました。

学校でも様々な形で先生が、そういう、きっかけづくりですね。これもキーワードですが、これをしていくことが大事だと思いました。皆様の発表を聞いて学校・家庭・地域それぞれでできることがあるし、それから共通しているところは一緒にできるものがあるのだと思います。

きっかけづくりって全部に共通しますね。親が仕掛けたり、先生が仕掛けたり、地域の図書館の方が仕掛けたり、ジュニアリーダーの方が仕掛けたり、児童委員の方が仕掛けたり、今日もコーディネーターの方もいらっしゃるし、iCSの方もいらっしゃるし、PTAの方も。皆さんもそれぞれの立場から、きっかけづくりを提供するのがいいのではないかと思います。

私は、子ども時代に読書が大嫌いだったのです。どこで好きになったかという、高校2年生のときでした。きっかけは高校2年でボランティア活動を始めたら、ボランティアの本を読みたくまりました。いろんなボランティアの本を読んでいたら、自然にどんどん、本が好きになった、つまり必要となると本を読めるようになって、それで好きに変わったんですね。

教員になった後も、とにかく必要な教育書を読もうってことでどんどん自分で買って読んでいたら、慣れて好きになったわけです。読書が大嫌いだったのに、趣味「読書」って書いちゃうのです。この変化が何かというと、自分が好きだからとか、自分が今必要とする知識を得たいという

ことで、本が好きになるわけです。自分が選べる、セルフでセレクトが重要です。

私が教育長になってから、学校の授業を変えようということで、子どもたちが、自分で選べる時間をつくることを推奨しました。例えば私は本で調べるよ、私はタブレットで調べるよ、私は図書館の本で調べるよと調べ学習をするときに選べる。その手段は今までは「皆さん〇〇で調べて」って先生が指示をしていました。自分で選べる、こういう授業をやりたいということで、セルフとセレクトの頭文字の S を使って「授業スタンダード S」と呼んでいます。これは読書も同じなのですね。

自分が選べるセルフ・セレクトができれば好きになる、この仕掛けで大人自身もそうだと思うのですが、夢中になるのではないかと思います。

きっかけづくりと共感が大切です。それから本に出てくるものが給食として出てくるというのは面白いですね。私が一昨年までいた私学の長野県の中学校では校長をやっていたのですがそこではジブリの作品に出てくる食べ物が給食で出てきました。楽しみながら給食とリンクする、これは面白いアイデアですね。このように、いろんな形で仕掛けていきましょう。

今日来た皆様はぜひ、仕掛人になっていただいて、読書活動を盛り上げていきたいと思えます。

山口委員が以前大事なことをおっしゃったのですが、不読率って言葉はやめたほうがいいのではないかと。不読率っていうとネガティブだから変えよう、読書率っていうといいのではないかっておっしゃっていただいた。

チラシには不読率って書いてしまったのですが、今日の館長の、プレゼンは「読書率向上の坂をのぼる」と置き換えて発表していただきました。

何といっても身近なところに本があるっていう環境を整備することは素敵ですね、「身近なところに本がある」。これをつくっていきましょう。

そして今日は「身近な教育委員会」でしたということで、終わりたいと思います。ありがとうございました。